

# スポーツ文化フォーラム Session8

コピーライター

長谷川 哲士 氏

スポーツとは、新しい言葉と出会う手段。

by 長谷川 哲士



# スポーツは文化である

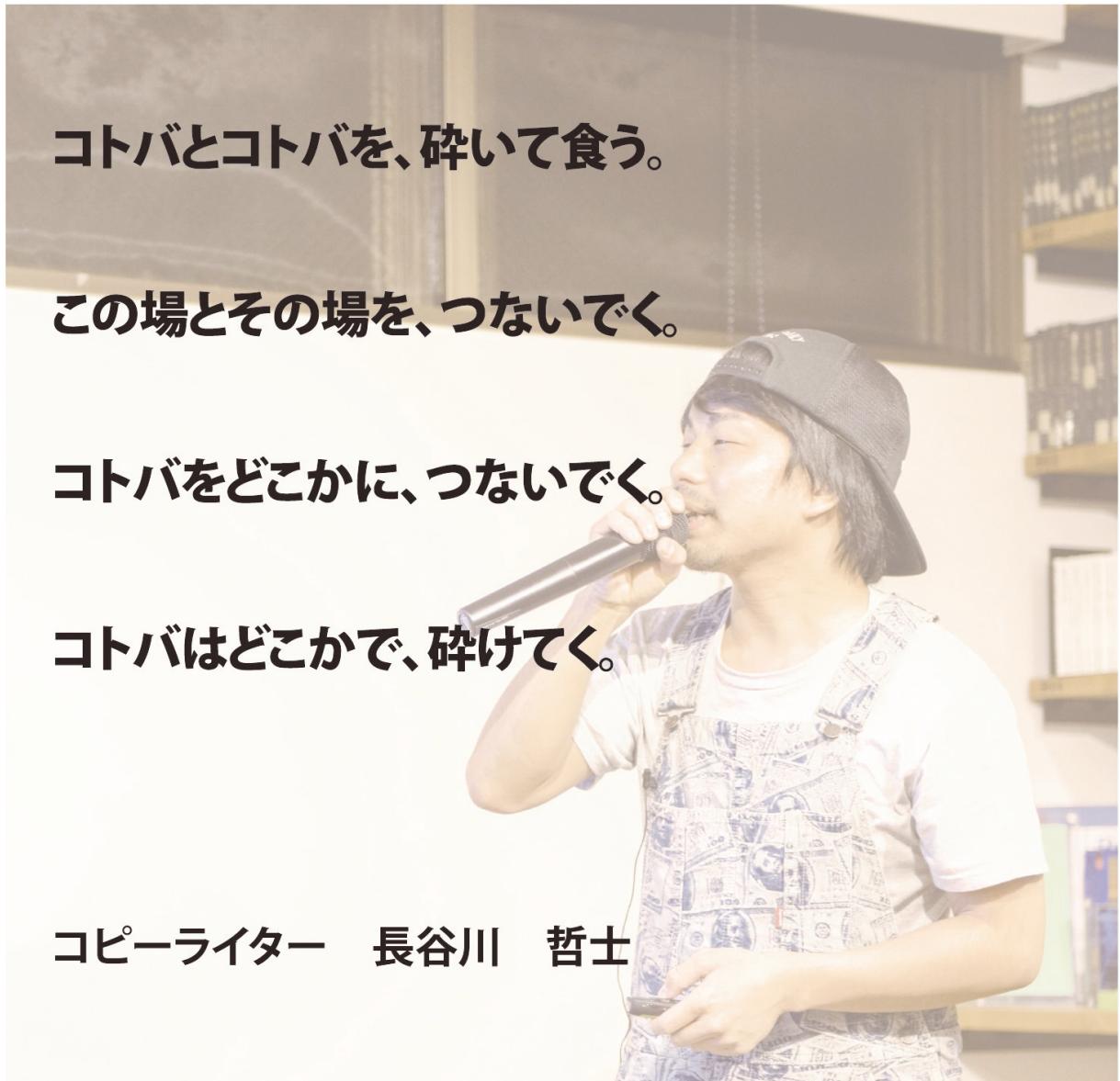
スポーツドクターとして、  
「スポーツは文化である」と  
世の中に伝えたいと思っています。

文化にはスポーツもあり芸術もあり、音楽もある。  
人間の心の豊かさを作る活動すべてが文化なのです。  
スポーツの文化的価値は、  
医療性、芸術性、コミュニケーション性、教育性、  
この4つであることに行き着きます。  
人はこの4つがないと、人間らしく生きていけません。

スポーツの医療性によって**元気**を、  
芸術性によって**感動**を、  
コミュニケーション性によって**仲間**を、  
教育性によって**成長**を。

「スポーツは文化」と言える国にすることが、  
私の志でありミッションの1つでもあります。

“自分しかできない”へのこだわり



コトバとコトバを、碎いて食う。

この場とその場を、つないでく。

コトバをどこかに、つないでく。

コトバはどこかで、碎けてく。

コピーライター 長谷川 哲士

僕がとても好きな糸井重里さんの言葉に「誰にでも出来る仕事が来た時こそ、自分しかできない仕事をしなさい」というのがあるんです。

僕がスーツを着て打合せをすると何か違和感があるんです。服装がチャランとしていればそういう人だとみてもらえると思うんですけど。仕事では人と違うことを求められていると思っているので恰好も自分らしいスタイルでいることにしています。

長谷川 僕は仕事をする上でアクシデントを楽しむことが大事だと思っていました。例えば今日のこの対談にしてもまだ誰もやったことのないことを探したいという思いからラップを歌わせていただきました。あと、働くときのポリシーとして必ずTシャツを着るというのもあります。ある時気づいたんですけど、僕がスーツを着て打合せをすると何か違和感があるんです。服装がチャランとしていればそういう人だとみてもらえると思うんですけど。仕事では人と違うことを求められていると思っているので恰好も自分らしいスタイルでいることにしています。

**辻** それは素晴らしい言葉ですね。僕は「明日も会いたいと思われるよう明日を生きる。明日も頼みたいと思われるよう明日も仕事しろ」と考えていて、それを自分の座右の銘にしています。

**長谷川** それも素晴らしいですね。「会いたい」という表現で他者の視点が入っているのが素晴らしいですね。短い言葉でも「会いたいと思つてもう」というところに自分がどういう人で在りたいかということを言つているじゃないですか。僕にはそこが刺さりましたね。

**長谷川** それも素晴らしいですね。「会いたい」という表現で他者の視点が入っているのが素晴らしいですね。短い言葉でも「会いたいと思つてもう」というところに自分がどういう人で在りたいか

**辻** 生き方の話になりましたけど、いつもどこでもどうありたいと思って生きていますか？

**長谷川** 僕は一年後が想像つくような生き方は良くないと思っています。未来の奴隸にはなりたくないですから。なので、同じ仕事をしていてもその中で色々チャレンジしているつもりです。一年後も同じ仕事をしているのかと思つたら非常につまらないですよね。だからどんな仕事にも必ず自分が携わった痕跡を残そうとしていますし、誰もやつたことのないことにチャレンジしてみようというこ

**長谷川** 良いですね。ジェームス・ディーンが「今日死ぬように生きろ」と言っていますよね。

**辻** 手がけたキャッチコピーが世の中に出ていてもそこに by 長谷川哲士とは出ないですよね。そういう意味でコピーライターは基本的に黒子的な存在だと思うんですけど、何が原動力になつていてるんですか？

**長谷川** 黒子でも自分が考えたものが世の中に出ているのが嬉しいですね。仕事の原動力でいうと、『伝わる』ということがとても面白いと思つていて、どうしたら伝わるのかを考えるのがすごく楽しくて、それを相手に「そういう意味か！」と伝えることが出来たらすごく気持ちが良いのです。特に難しいことをスパッと簡単に言えたときとか。モノゴトを例えるのが好きなので、自分の例えは

き方をみんなするべきだという思いを持っています。

とは常に意識していますね。

## シンプルに伝わる気持ちよさ

外れることが多いという自覚はあるんですけど、でも言いたいんですよ。

**辻** そこで言う“外れるかどうか”というのは、ウケるかウケないか、伝わるか伝わらないかで言うとどちらに近いイメージですか？

**長谷川** 一応伝わって欲しいと思つてはいるんですけど、誰かがツッコんでくれてウケてくれたらしいかくらいの感覚です。

### 言葉が生まれるとき

**辻** 普段、仕事場ではどのように言葉が生まれるんですか？

**長谷川** まず、依頼を受けるケースと依頼はないけどネタを溜めるケースがあります。例えば先日広辞苑に新しく加えら

れた言葉の中に「ブラック企業」というのがありますて、言葉というのは辞書に載つて認知されるようになるとそれが認められたモノゴトとして尚更広がつてしまつて個人的には広辞苑に「ブラック企業」は載せて欲しくない言葉だつたんですけど。仮に僕が広辞苑のキャンペーンを依頼されたとしたら、広辞苑から「自殺」という言葉を無くしたらおもしろいかなと思って、広辞苑の新版から（キヤツチコピートして）「自殺が消えました」というと広辞苑がちょっとカッコイイと思えたりするじゃないですか。

そういうことは常日頃考えていますね。

**辻** それは面白いですね。依頼の場合はどのような流れなんですか？

**長谷川** 依頼いたく場合はまず先方の話を聴きながらはじまります。打合せの場は小さな世の中だと思ってるので、わりとかには固執しないです。仕事中も

そこで半分以上が笑つてくれたらそれは世に出してもイケるとなる感じですかね。

**辻** 僕の言葉選びの思考には、みんなにそれがウケるかとか、どう反応されるかというのはなくて、考え方を伝えるために一番シンプルなものは何か、或いは僕の耳障りがどうかということが大事な要素ですけど、長谷川さんの場合はみんなの反応が大きな指標になつてているわけですか？

**長谷川** そうですね、自分の判断はどうでもよくて、僕が微妙だと思っているキヤツチコピートも反応が良かつたらその都度自分の物差しを変えていかないとダメだと思っています。そうすると自分の中に世の中の感覚と近い物差しを持つていられると思っているので、自分のこだわりとかには固執しないです。仕事中も

結構話しています。一般的にコピーライターの人は出し惜しみするタイプの方が多いと思いますが、僕はとにかくテストした方がいいと思っているので言葉をどんどん出して反応を見るタイプです。

### 企画性、そして通す力

**辻** コピーライターを志望する若者へのコピーライティングのセンスを磨くためのアドバイスなどはありますか？

**長谷川** まず、「ツイッターのフォロワーを千人にしてから悩みなさい」と言いますね。ツイッターはコピーの勉強をするのにとても良いんです。例えば自分の日記でコピーの練習をしても良い悪いがないんですけど、ツイッターだと色々な人に見てもらえるので自分がつぶやいた言葉に対してもういう反応が得られるか想像する勉強も出来るんです。

ただ、いきなり好きなことをつぶやいても誰もフォローしてくれないので、大事なのは企画性です。例えば今日だと十一月十五日なので「イイコの日だな」ということで「イイコ」というハッシュタグを作つて何かつぶやく、或いはとにかくスマダンクの名言だけをつぶやくアカウントにしてみるとか。そういう企画性も含めてフォロワーは増えていくんです。その作業すべてが広告と同じだと考えています。そういうところで工夫を出来る人が実際の仕事でも工夫することが出来るんだと思うんですよ。ツイッターなんて意味ないと思っている人はどんな仕事を来ても意味ないとしか思えないと思うんです。

ける人はたくさんいると思うんですけど、それを通すことの方がプロの仕事だと思いますね。通す力がないといつまでたっても世に出せない。そうすると世に出てるものを見て「あれ、俺も考えていました」と言う一番残念な人になってしまふんですよ。例えば僕の場合、ツイッターヒには面白いものや書きたいものを上げているので頼まれる段階でそういうものを期待されますよね。面白法人と名乗つた力ヤツクという会社で仕事をしていたときは、面白法人と言っているので「面白いかな」という仕事しか来なくなるわけです。

### 新しい言葉を生む——スポーツ

**辻** ただ面白いコピーをつくるだけではないということですね。

**長谷川** そうですね。面白いコピーを書

**辻** 最後にスポーツとは○○である、○○ではないという考え方を聞かせていただきたいたいと思います。例えば僕であれば、スポーツとは文化である、体育ではない、と

いうのがスポーツに対する大きな考え方で  
すけど、長谷川さんはどうですか？

**長谷川** スポーツとは新しい言葉と出会う手段でしようか。スポーツの大きな特徴はルールがあること。ルールがないとスポーツにはならないですよね。例えばサッカーだと手を使つてはいけないといふようなこと。

**辻** なるほど。ルールという制約があることでそれを打破していくと考へる。そして思考は言葉なのでそこに新しい言葉が生まれるということですね。

長谷川さん、今日はありがとうございます。

二〇一七年十一月十五日  
スポーツ文化フォーラム



2017年11月15日  
スポーツ文化フォーラム  
Session8  
GLOCAL CAFE  
編集 株式会社エミネクロス  
撮影 田口聖也  
製作・発行  
株式会社エミネクロス

## 長谷川 哲士

CEO・プランナー・コピーライター・ラッパー

1984年島根県松江市生まれ。

大学卒業後、リクルートに勤めた後、リーマンショックで無職に。面白法人力ヤックを経て、2016年1月に株式会社コピーライターを始動。2017年から株式会社噂のCEOに就任。  
広告賞受賞歴多数。  
代表作 「元カレが、サンタクロース。(なんばや)」  
「元カレも、今カレも、オカモトです。(オカモト)」  
「世の中につかれたら、水の中につかろう。(西武園ゆうえんち)」など。  
(2017年11月現在)

## スポーツ文化フォーラムとは

スポーツや文化、人生などについて  
より豊かな毎日を送るヒントや気づきを  
多方面でご活躍される文化人をゲストにお迎えし  
スポーツドクターと対談するイベントです。

<http://www.doctor-tsugi.com/>

